

科目名	社会哲学特殊研究	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>今日の激変する社会の構造を分析し、そのあるべき姿を探求することは私たちの喫緊の課題であろう。そこで学習者にとって今日何が現代社会の根本的な問題なのか、どうしたらそれを自分自身の力で解決することができるのか、日本人として何ができるのか。これらを社会哲学のテキストを読み解くことを通して、理論的に考察し、その社会倫理的な実践に向かう視点を養う。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 学習者が今日の社会の諸問題を哲学者の指摘を参考にしつつ深く理解することで、多様な国家や民族そして文化の存在価値を踏まえて共生というあるべき社会の姿を論理的に提示できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 学習者は社会のあるべき姿を理解する過程で、まず既存の社会が抱える諸問題を客観的に捉える。そのために世界の多くの文化、民族の多様な価値を哲学的に深く考察し、そこから現実起こっている諸問題に迫り、さらに解決を目指すことができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 学習者は今日の社会の諸問題に意識的に取り組み、テキストにあるように哲学者が論究する問題について、それらが具体的にどのようなものかを自ら調べ、さらにその問題を掘り下げ解決を目指して行動に移すことができる。たとえば、マス・メディア等でそれらの問題を把握することにもテキスト理解と同様の時間を使う。さらに自分の近辺でも同様の問題があるかどうか調べる。可能であれば自らもその問題の解決に参加。1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、manaba folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上が目安。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 学習者はテキストの正確な理解と同時に、図書館の活用、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でそれらの問題を自ら調べることができる。さらに身近なところでもそれが起こっていないかどうかフィールドワークを行い、可能であればそのような問題に取り組む団体に参加し、自らもその解決に向かって主体的に取り組むことができる。レポート作成に際して、manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 哲学では社会の諸問題をどのように捉えているか、それを導きとして学習者は諸問題の解決に向けて努力すること。そして可能であればそれらを批判的に考察したレポートを作成提出すること。作成時の疑問に関しては随時manaba folioを使って担当者に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)は7月末、課題(2)は8月末を目安に提出する。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目安に提出する。いずれの課題も次年の1月上旬までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること
	平常評価	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	<p>レポートの課題に関連したテキストの部分のみでなく全体を通してじっくりと読み理解すること、さらにそこで述べられている諸問題を身近な問題として具体的にに取り組むことが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 中村健吾 教材名： 『古典から読み解く社会思想史』（ミネルヴァ書房，2009年） ISBN:978-623-05585-C3010 3000円+税
	現近代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書，2冊，2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円+税 加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社，2001年）ISBN:4-7907-0876-4，2000円+税
履修上のポイント	テキストは内容上3部構成となっているので、自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、新聞等身近なもろもろの資料から調べ、可能であればフィールドワークをすることが望ましい。
レポート課題 1	テキストの第1部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいところを中心に要約すること
レポート課題 2	テキストの第2部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいところを中心に要約すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 中村健吾 教材名： 『古典から読み解く社会思想史』（ミネルヴァ書房，2009年） ISBN:978-623-05585-C3010 3000円+税
	現近代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。
参考図書	加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社，2001年）ISBN:4-7907-0876-4-C3310 2000円+税 熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書，2冊，2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円+税
履修上のポイント	テキストは内容上3部構成となっているので、自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、新聞等身近なもろもろの資料から調べ、可能であればフィールドワークをすることが望ましい。
レポート課題 1	テキストの第3部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいところを中心に要約すること
レポート課題 2	上記3つの課題レポートを土台としつつ、今日の社会の諸問題からあなたが興味を持っている事柄を詳しく紹介し、その内容、問題点、解決への方向を述べなさい。その際、同様の事柄を自分の専門研究分野から述べてもよい。 留意点: 図書館、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でその問題を自ら調べ、批判的に考察することが望ましい。